

【第 78 回 新制作展観賞会の様子】

9月26日（金）、台風16号崩れの低気圧の影響で前日は激しい雨が降っていましたが、一転、秋晴れ。

国立新美術館には7人が参加、入り口が二つで広いこともあり、やや集合に時間を要するも、無事、五十嵐画伯の引率で入場。

いつものことながら、新制作展の大作の数々に圧倒されつつ鑑賞会スタート。

久しぶりの再会に、ふと病氣自慢なども飛び出してややこの先が不安でしたが、さすがに芸術に造詣の深いメンバーのこと、以降は熱心に画伯の説明を聞いたりじっくり作品に見入ったりで一安心。

さて、今回の画伯の作品、前作に引き続き、黄色を基調とした（と筆者が勝手に考えているだけかも）蜂と巣。

描くことはおろか鑑賞眼もない筆者にとっては作品のコメントはできないものの、奥方が蜂に刺されてからずっとこれをモチーフにしておられるとのこと、画伯の奥方への愛情がこの絵に込められているのだろうなどと勝手に想像。

まして絵の裏に何があるのか、何を表現したかったのかなどまったく論評できませんので、知りたい方は是非次回参加して直接鑑賞してください。

画伯によれば、今回4点の作品を出されて、本人の気に入ったものではないものが選ばれそうです。気に入っている作品の写真をを見せていただきましたが、70数名の審査員のうちの圧倒的な皆さんがこの作品を選ばれたそうですので、作者とは違う評価があるのでしょうか。

会場で画伯の錦中学時代の同級生の女性と遭遇、横浜からおいでとのこと、メンバーの誰か（？）がこの後の飛鳥での祝賀会にお誘いしましたが、ご予定があおりとのこと残念。

このあと、隣のブースで同時開催の「行動展」を鑑賞させていただき、2時間半の観賞会を終了、筆者の足は棒

